

日本仏教社会福祉学会 ニュースレター No.26

■平成28年12月23日

■発行・編集 日本仏教社会福祉学会 事務局

CONTENTS

- ・平成28年度 日本仏教社会福祉学会 第2回理事・役員会報告
- ・平成28年度 日本仏教社会福祉学会 臨時理事・役員会報告
- ・平成28年度 日本仏教社会福祉学会 第51回大会報告
- ・平成28年度 日本仏教社会福祉学会 総会報告
- ・平成29年度 日本仏教社会福祉学会 第52回大会案内

日本仏教社会福祉学会

発行日：平成28年12月23日
 発行：日本仏教社会福祉学会
 事務局
 〒354-8510
 埼玉県入間郡三芳町藤久保
 1150-1
 淑徳大学 埼玉キャンパス内
 TEL：049-274-1511 (代)
 FAX：049-274-1521

平成28年度 日本仏教社会福祉学会 第2回理事・役員会報告

日時：平成28年9月30日（金）
 15：00～16：30

場所：立正大学 品川キャンパス
 出席 代表理事 長谷川匡俊

個人理事

石川到覚 宮城洋一郎 藤森雄介
 小笠原慶彰 池上要靖 清水海隆

団体理事

三友量順 小島恵昭

出席監事

梅原基雄 山口幸照

名誉会員

中垣昌美

事務局長

藤森雄介（再掲）
 （事務局員 オブザーバー）
 渡邊義昭 藤田則貴

欠席理事

委任状の提出あり

個人理事 田代俊孝
 田宮仁 村井龍治 谷山洋三
 団体理事 渋谷 哲 落合崇志
 長上深雪 林 俊光

委任状なし

団体理事 徳岡博巳

議事報告

事務局 開会の宣言
 出席理事の確認。谷山理事欠席の連絡を受

けている。代表理事に議事を委任。徳岡理事は連絡をさせていただいているがつながらなかった。

1 定足数の確認

出席の確認 理事会規定第6条の基づき本理事会は成立している。

代表理事



今回の大会は、半世紀を経過し、節目の大会となっている。準備にあたっては、立正大学の特に清水先生・三友先生をはじめ、大学関係の方々には、並々ならぬご配慮をいただいて、この大会が成功裏に終わりますように、理事・役員の方にもご協力をいただ

きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

事務局：議長の選出は理事会規定に基づき、代表理事にお願いしたい。

2 議案

第1号議案 会員の異動について

議長：事務局より第一号議案についておはかりいただきたい。

(1) 入会会員の承認について

事務局：次の新入会員9名の申し出があった。について審査の結果、承認された

①入会会員の承認 個人会員（順不同）

- ・高橋 雅人・平田 真紹・小林 俊暁
- ・浅沼 太郎・奈良 修三・坂本 智代枝
- ・松尾 加奈・野村 康治・溪村 真司

(2) 退会会員の承認について

事務局：資料の通り退会者の申し出があった。5名の会員から申し出があった。

②退会会員の承認 個人会員（順不同）

- ・矢吹 和子・五十嵐 信泰・吉元 信行
- ・藤腹 明子・福井 豊信

(3) 会費未納会員について

事務局：4月以降、督促をお願いしている。規定では3年未納の場合、退会勧告が可能となっているが、事務局として継続して、改めて働き掛けていきたい。

議長：それでは、入会・退会につきまして、ご審議いただきたい。

理事：承認

中垣名誉会員：今まで、入会会員については、入会申込書に研究業績等書いていないため、学会に入っていたいただくためには、ある程度意識をきちんと持っている方々でないに困る。残念なのは、団体会員の学長が変わったら、退会という意識だと困る。学長が変わったら、退会というのは、如何なものか。

また、私は、会員になる人物と直接会って推薦している。先程ご承認いただいた、新規会員と一緒に今後の社会福祉の展望について話し合いを行った。また、仏教社会福祉の基礎的な理論構築についての発表するようにお願いをした。

また、そういう勉強もしながら発表をするというお約束をした。こういう施設の長が、大学に所属している、していないは別として、臨床面で仏教ソーシャルワークを実践している人材は、もっと他にいるはずである。臨床面で施設長クラスの会員をどんどん増やし、学問的な基礎の発展につなげていく、結び付けていくということ、各理事がはっきりと持ってほしいという願いがある。

議長：ありがとうございます。今の中垣名誉会員のご指摘は、非常に重要な部分である。私は、明日の講演の時にも触れる予定ではあるが、日本仏教社会福祉学会の弱点である現場との連携は、重要である。また、意識的に施設に限らないが、実践をされている方々、

その組織・団体の会員に対して推進していくことも重要だと考えている。なお、札幌大谷大学の件につきましては、学長を中心としてやっていた福島会員が京都の方の大学に移動してしまった。軸が無くなってしまったということがあった。それが続かなくなった要因であろうと考えられる。いずれにしても今後、団体会員の場合には、団体会員となることに対して意識を高めていくことが必要である。

議長：第1号議案についてご審議いただきたい。

理事：承認

入退会について審査の結果、承認された。

個人会員 201+16-9=208名

団体会員 22団体 計230会員

第2号議案：平成29年度事業計画(案)及び平成29年度予算(案)について

事務局：各プロジェクトのご担当の委員に先生方には、今年度理事役員の選出選挙が行われた関係で、この後、理事役員体制が決定する。総会・理事会につきましては、種智院大学で行うこととなっている。第1回目の理事・役員会は4月を予定しているが、新たな代表理事が決定してから、場所等の詳細が決まってくる。

・平成29年度総会 平成29年9月9日（土）
（於：種智院大学）

・平成29年度理事会 第1回 平成29年4月第3週～第4週で決定。事務局異動のため未定。第2回 平成29年9月8日（金）（於：種智院大学）

年報刊行事業としては、第48号を予定している。研究助成事業としては、『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会の開催を東西で予定している。学会賞（学術賞・奨励賞）につきましては、第6回学会賞として、対象期間：平成27年1月1日～平成29年12月31日となっている。また、積極的な推薦をお願い致します。第52回学術大会開催事業としましては、平成29年9月9日（土）～9月10日（日）：種智院大学にて開催致します。広報事業としては、年2回のニューズレターの発行、ホームページ維持・管理を引き続き株式会社 国際文献社にお願いする。また、研究事業につきましては、仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト、仏教社会福祉学研究史（仮）プロジェクト、「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発」プロジェクトとして、この後説明するが、「私立大学

戦略的研究基盤形成支援事業」との連動に伴う、「東日本大震災対応」プロジェクトからの名称変更を行い、引き続き行っていく。学会事業担当につきましては、年報編集担当理事の先生方で、編集委員会と査読委員を組織してもらいたい。研究担当理事として、複数の先生に関わっていただきたい。具体的には、仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト、「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発」プロジェクト、『仏教社会福祉入門』勉強会、『仏教社会福祉学研究史(仮)』編集刊行委員会である。また、代表理事が決まりましたら、それに併せて、庶務担当理事、事務局を立ち上げてもらいたい。平成29年度の事業として考えてもらいたい。今の事業計画に併せた収支予算(案)となる。個人会員については、第1回理事・役員会までの204会員を暫定として組ませてもらった。あくまでも予算(案)として明日の総会に提出したい。団体会員につきましては、今年度2団体が退会することになったので、24から22口ということで、6万円の減となっている。それ以外については、前年度同様の予算を組んでいる。収入計につきましては、238万6千円となっている。この収入に対して支出の部だが、これも前年度同様に組ませてもらっているが、1点事務費につきましては、代表理事の変更に伴い、事務局が異動する可能性がある。そのため、事務用品等の準備もあると考えられる。そのため、2万円増額してある。併せてホームページ維持に関して3万2,400円を挙げているが、消費税分2,400円上乗せしている。支出の合計は、229万2400円となっており、収入計から支出計を引きますと、9万3600円平成30年度への繰越金となる。事業計画と併せて、ご審議をお願いしたい。

議長：それでは、ただ今の件に関しまして、ご審議いただきたいと思いますが、如何でございましょうか。予算案の方は、だんだん厳しくなっている。平成28年度の会費徴収状況が進行中なので分からないが、会費未納会員の方々を別として、過年度納入もあり、平成28年度分単年会費納入のみだと非常に難しい状況となっている。いずれにしても窮屈になっていることは、間違いない。

特にないようでしたら、平成29年度事業計画(案)及び平成29年度予算(案)についてご承認いただけますでしょうか。

理事：承認

第3号議案：理事選出選挙結果及び次期理事・役員体制(案)について

事務局：第3号議案として、①と②という資料がある。次期役員体制ですが、選挙管理委員長の鷺見会員の下で6月に選挙用紙を発送させていただいた。その後の経緯で申し上げますと、7月9日に淑徳大学埼玉キャンパスにて開票作業が行われ、「平成28年度 日本仏教社会福祉学会理事選出選挙」の結果を鷺見宗信選挙管理委員長から別紙の通り報告を受けた。第3号議案②というのは、その理事選出選挙結果である。投票結果を基にして、事務局案として、役員体制を組ませてもらった。個人会員として、上位7名として入っている。得票数としては、7票集めた人が候補となっているが、理事役員選出規定として、得票数上位ということで、理事として挙げさせていただいた。それ以下につきましては、投票の参考にしたが、実は、1票でも入っている人を代表理事とも相談をして、今まで関わっていなかった方々も含めて、また、次の10年を推進していく意味においても、世代交代ということではないが、若い方々にも入っていただきたいと思い、また、ご辞退いただいた会員もいるため、再度調整をし、挙げさせていただいた。引き続き団体理事候補だが、上位3団体につきましては、選挙上位となっている。立正大学と龍谷大学が同数となっている。形上、龍谷大学は、上位と推薦がかぶることとなる。中部ということではないが、身延山大学と同朋大学に入ってもらった。それぞれ、東部西部ということで、団体理事を組ませてもらった。監事については、引き続きとなってしまうが、梅原会員と山口会員を候補として挙げさせていただいた。

審議の方をお願いしたい。

議長：理事選出選挙結果及び次期理事・役員体制について、個人理事・団体理事を含めて、このような形でスタートさせたいという案ですが、いかがか。何かこの点に関しまして、ご質問はありますか。

清水理事：団体理事に立正大学が入っておりますが、三友先生が、今年度いっぱいご定年でございまして、4月以降は、個人名詞は差し控えさせていただきたい。

議長：それでは、ご担当が交代します間ということで、受け止めさせていただきます。それぞれの大学でご判断いただきたいと思います。やはり、緩やかな形で世代交代がなされていないと、学会の将来が厳しくなってくる。また、役員の方のご協力によって、

若手の発掘、そしてご推薦をいただきたいと思う。特にならなければ、第3号議案：理事選出選挙結果及び次期理事・役員体制(案)についてご承認いただけますでしょうか。

理事：承認

次期理事・役員体制は、以下の通り

◎個人理事候補一覧

会員氏名	該当種別
清水 海隆	選挙上位
新保 祐光	選挙上位
石川 到覚	選挙上位
栗田 修司	選挙上位
宮城 洋一郎	選挙上位
長谷川 匡俊	選挙上位
藤森 雄介	選挙上位
落合 崇志	推薦
田宮 仁	推薦
野田 隆生	推薦
鷺見 宗信	推薦
長崎 陽子	推薦

◎監事候補

- ・梅原基雄会員(前淑徳大学短期大学部)
- ・山口幸照会員(高野山大学)

注) 監事候補者は、個人・団体会員の東西地域による。

◎団体理事候補一覧

団体会員名	担当氏名	該当種別
大正大学	宮崎 牧子	選挙上位
淑徳大学	渋谷 哲	選挙上位
立正大学	三友 量順	選挙上位
龍谷大学	長上 深雪	選挙上位
(推薦)		
身延山大学	池上 要靖	推薦
同朋大学	小島 恵昭	推薦

第4号議案：日本印度学仏教学会の評議員について

議長：それでは、第4号議案の日本印度学仏教学会の評議員について、事務局お願い致します。

事務局長：清水先生、三友先生経由となるが、日本印度学仏教学会の丸井先生から日本仏教社会福祉学会の事務局宛にメールを頂戴した。日本印度学仏教学会の評議員のお一人は、日本仏教社会福祉学会の推薦というか充て職といえますか。日本仏教社会福祉学会から出ていたということであった。今まで北畠先生がなられていたということだが、北畠先生は、数年前に退会をされている。日本仏教社会福祉学会の学会として評議員を挙げていることを理解していなかった。理事・役員会にも議案として挙げた記憶がない。ご連絡いただき、

お詫びした上で検討して、当初、日本印度学仏教学会の理事会に間に合わせていただきたいとのことだった。本来であれば、議題として挙げてご審議いただかなくてはいけませんのに、代表理事と相談をしてある種の緊急措置ということで、三友先生にお願いするということになり、理事・役員会には、事後承認という形となるが、メール等の行き違いで、間合わせ中ということとなった。そのため、改めて、本学会として、事務局としても三友先生にお願いをして、明日の総会で丸井先生もいらっしゃるので、直接お詫びし、学会としての評議員推薦者を提案したい。つきましては、事務局としましては、三友先生に評議員を推薦したいと考えている。ご審議をいただきたい。

議長：それでは、本学会として三友先生をご推薦したいと思っているが、理事・役員の方のご審議をいただきたい。何かこの点にありますか。私は、日本仏教社会福祉学会と日本印度学仏教学会との関係性は、重要な意味を持つことは考えていたが、私自身としては、評議員を出していたことに対して、認識していなかった。また、その様な報告を受けた記憶もない。何かこの点に関してご質問等ないか。

山口理事：評議員になるのには、日本印度学仏教学会の会員になっていなければいけないのか。

田代理事：日本仏教社会福祉学会の推薦という形であれば、必ずしも会員でなくても良いのではないかと。

事務局長：三友先生は、日本印度学仏教学会の会員でもあるので、そこも併せて考えていただきたい。明日お会いした時にその辺はお聞きしたいと考えている。

議長：特にならなければ、それでは、第4号議案：日本印度学仏教学会の評議員について学会として三友先生を評議員としてご推薦するというをご承認いただけますでしょうか。

理事：承認

議長：第5号議案：社会事業史学会・日本近代仏教史研究会・日本仏教社会福祉学会共同開催の「シンポジウム 吉田久一の歴史研究を問うー社会福祉史と近代仏教史の立場から」について

事務局長：第1回理事・役員会が終わってから、6月～7月位だったと思うが、代表理事からお話をいただき理事会という形では、ご

審議いただけなかったが、理事・役員の先生方には、ご案内をさせていただいたかと思う。共同開催も了解いただき、準備を行った。趣旨説明としては、他の学会の先生方に代表して書いていただいた。シンポジウムの受付等の事務につきましては、日本近代仏教史研究会の事務局の方でやっていただけるという形となっている。日本仏教社会福祉学会としては、会員にご案内ができていないため、この内容で了解いただければ、明日、来ていただいた方には受付で配布したいと考えている。また、総会でも言葉を添えたいと思う。欠席されている方には、名簿でチェックし、送付したいと考えている。そういった形で、ご審議いただきたい。

議長：細かな経過は省くが、特に日本近代仏教史研究会や社会事業史学会は、会長どうし引き合わせをしたら、このような趣旨でやろうということとなった。そして、ぜひ日本仏教社会福祉学会においても共同開催という形でやっていかないかということで行うこととなった。このような機会を通して学会間の交流が深まっていけば、お互いに共通するところもあるのではないかと思う。併せて淑徳大学の千葉キャンパスで行いますのは、吉田久一先生の晩年資料も含めまして、数年前にご寄贈いただいたものを展示致しております。目録等もごございますので、この機会に見えられた方々に展示をご覧いただくことも併せて致してみたいと思っている。また、人数としては、4~50人を念頭においているが、パーテーションをとれば、100人位まで対応できる。

石川理事：本学の学内学会のホームページにアップしても良いと思っている。

議長：ありがとうございます。第5号議案についてこのような形で進めさせていただくことについて、ご審議いただきたい。

理事：承認

議長：次に、第6号議案：第52回学術大会について

事務局長：これにつきましては、種智院大学で引き受けていただくこととなった。この件につきましては、宮城先生からアナウンスをお願い致します。

宮城理事：去年の秋から種智院大学の先生方と話し合いを続けてきた。3月の学科会議で学科の先生方のご了承をいただいた。4月の教授会で大学の先生方のご了解をいただき、学長にもご了解をいただいた。平成29年9月9日（土）、10日（日）を学会の期日として予

定している。理事会は、8日の金曜日となる。よろしくお願ひしたい。龍谷大学の長上先生とも相談をしているところである。人的なサポートは、龍谷大学の学部生、大学院生にも協力いただけることとなっている。何とか龍谷大学の学生のサポートをいただきながら、進めていきたい。

また、テーマをいろいろと考えている。社会福祉法以後の課題と仏教社会福祉ということとで今現在、煮詰めている。記念講演については、歴代真言宗関係の施設長の理事長が沢山いるので、そのような方々にお願ひしたい。また、シンポジストも先生方にお願ひすることになっている。特にこの3年間は、関東の大学でお世話になっているので、関西の先生方にも頑張ってもらい、協力してやっていきたいと考えている。とても小さな大学で、京都駅から電車と徒歩で合わせて30分位はどうしてもかかる。いろいろ不便をかけると思うが、よろしくお願ひしたい。

議長：ありがとうございます。只今の件で、何かご質問等はあるか。平成29年9月9日（土）、10日（日）は、本決まりであるのか。

宮城理事：はい。その日程でお願ひしたい。宿泊の件ですが、大変厳しい京都の状況があるが、旅行業者との兼ね合いがあるので、うまくいけば、固まって部屋がとれるかもしれない。しかし、沢山でとることは難しいようである。一人ひとりが個人でとると意外と空いているようである。できるだけ早めにアナウンスできるようにしたいと考えている。

議長：種智院大学には、色々ご迷惑をおかけすることとなると思うが、よろしくお願ひします。ご報告ありがとうございます。それでは、続いて第7号議案の第53回学術大会についてお願ひします。

事務局長：第53回学術大会については、具体的にどちらにお願ひするかは、まだ決まっていない。少し早い段階からお声掛けしなければならぬと考えていた。そのため、議題に入れさせていただいた。清水先生から内々で話を聞いている。非公式では、そろそろ身延山大学で候補として挙がっているようである。他にこちらでというご意見があるようでしたら、この機会でお願ひできればと思っている。いかがでしょうか。

宮城理事：去年、たまたま京都駅で池上先生とお会いした。その際に、次は、先生の所でお願ひをしておいた。その時に特に嫌ということは、言っておられなかった。

議長：他には、どこか候補はあるのか。それ

では、無いようなので、第53回学術大会については、身延山大学が候補として挙がっているのでお願いしたいということを懇親会の際にお伝えできればと思う。

事務局長：報告事項①50周年記念第51回学術大会の準備状況について



清水理事：学術大会そのものは、三友先生にお願いしている。三友先生からご報告させていただくのが筋かと思うが、時間の関係上、私からご報告させていただく。

まず、2点に分けて報告する。まず、1点目は、50周年記念大会につきましては、お手元の封筒の中にある要旨集をご覧いただきたい。2ページ目に大会概要を載せてある。明日は、50周年の法要ということで、代表理事から音楽法要の要請があった。地元近くのお寺にお願いしてある。時間が若干おすかもかもしれないが、ご容赦いただきたい。導師は、理事長である古河良皓先生、仏教学部長の寺尾英智先生、三友量順先生にお願いした。

日蓮宗の寮生出身の方々にもご協力いただく。引き続き、石橋湛山記念講堂において、開会式をやらせていただく。また、長谷川代表理事のご挨拶をいただき、ご祝辞を日本印度学仏教学会の理事長、日本社会福祉学会の会長、日本キリスト教社会福祉学会の会長、日蓮宗宗務院の伝道局長からそれぞれ、お言葉をいただくことになっている。その後、会場を移して、11号館の1161教室において長谷川先生に基調講演をお願いしている。お昼をはさんで、大会シンポジウムとして「仏教社会福祉の課題と展望」という題目で、行う。その後、その会場で、日本仏教社会福祉学会の総会を行う。最後に、学生食堂において懇親会を行う予定である。第2日目は、8席お申し出をいただきましたので、2部会で研究発表を行う。また、長谷川先生の資料を大会要綱に挟ませていただいた。また、シンポジウムも石川先生からレジュメをいただきましたので、同じく挟んであります。本日から3日間、どうぞ宜しくお願い致します。

もう1点は、記念誌に関わるものである。記念誌が完全に出来上がっていない。申し訳

なく思っている。記念誌に関する紙の部分と文献目録をCD版で配布するという部分が池上先生がご担当で、1万5千件位データは集めたが、もう少し時間が欲しいとのことだった。年度内には出させていただく。年度内に出す経費も印刷業者が紙媒体とCD版の両方で安くしてくれている。池上先生ですが、本日は、身延山大学の職員の檀家でご不幸があった。そのため、理事・役員会には間に合わないが、懇親会にはいらっしゃる旨の伝言を預かっている。お預かりした内容は、論文が1万5千件をそのままプリントしてきた。それをこれから回覧でお見せする。お手元には、頭、5ページ程があると思う。同じく著作の方も4千行位あると思う。何かあったら、懇親会の際にお願いしたいとのこと。CDデータと紙媒体のもの両方を入れて作る事となっている。

議長：記念法要、音楽法要の際には、何か焼香にあたるようなものはあるのか。

清水理事：講堂では、焼香ができないようになっている。

議長：挨拶等は、どのようになっているのか。

三友理事：ご挨拶される先生方は、下から上がっていただいております。

議長：この50周年を飾るのに相応しい記念の慶讃音楽法要をやっていただけるというのは、とても有り難いことである。この学会らしさを印象付けることになるのではないかと、思っている。ご準備が大変であると思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

事務局長：報告事項②は、各担当理事からの報告となっている。まず、年報編集委員会・査読委員会担当の小笠原先生お願い致します。

小笠原理事：まず、最初にお詫びですが、年報47号は、大会には間に合わない状況となっている。年内完成を目指す。論文については、投稿があったが、査読で掲載不可となった。来年度の年報第48号は、私の担当は、査読依頼までとなっている。査読の戻りから新担当理事の役割となっている。引き継ぎを滞りなくやろうと考えている。年報47号は、私の責任で発刊する。

事務局長：年報第47号につきましては、実は、昨年の第50周年のシンポジウムに関連する原稿が今回の発刊に間に合っていない。大会事務局としては、渋谷先生が事務局長であった。我々のスケジュール管理不足であった。申し訳なく思っている。年内発刊は、守りたいと思っている。申し訳ありませんでした。

議長：私も淑徳大学に関係している者として、

大会校の管理不足で、誠に編集委員長にご迷惑をかけている。学会にもご迷惑をかけている。大会に間に合わせるということは、至上命題であったはずだが、それができなかったことに対して、お詫び申し上げたい。早急に整えるようにしたいと考えている。

石川理事：小笠原先生、この間、しっかりと体制を作り上げていただいていたので、それが次の理事にうまく継承されるようにしていただきたい。次の理事は、お近くの方が良いのではないかと思う。

小笠原理事：新理事の中から年報編集委員会・査読委員会理事が選ばれるが、私は、お願いしたいと考えている理事がいる。引き継ぎをしっかりとしたいと考えている。

議長：大会が例年より前倒しになるということとは別として、時期大会までには、年報が出るという体制を作っていないとまずいと思う。

事務局長：引き続きまして、「仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト」について担当の石川先生、宜しくお願いします。

石川理事：今度理事になる予定の新保先生がいわゆる文部科学研究費助成を取っておりまして、昨年で終えたところである。明後日の分科会でも報告をすることとなっている。中身の確認は、そちらでお願いしたいと思っている。淑徳大学の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究」と重なり合っている部分が多い。それをどう引き継いでいくのかが、一つの課題ともなっている。また、新理事の中でも検討し、議論を深めていってもらいたいと考えている。

議長：ありがとうございます。ただ今の報告に関しましてご質問はありますか。

事務局長：続きまして、『仏教社会福祉学研究史序説』の準備については、谷山先生だが、今回ご都合が悪く出席できない旨の報告を受けている。進捗状況は、前回のものと同様なため、足踏み状態となっている。時期の理事体制の中には入っていないため、今後谷山先生のご意見をうかがいながら、新体制の中でどなたかこのプロジェクトを引き継いでやってもらいたい。また、辞典、入門書に続くものを新体制でも引き続きやってもらいたい。ご欠席のため、事務局で代わりに報告させていただいた。

議長：ありがとうございます。ただ今の報

告に関しましてご質問はありますか。このプロジェクトは、組織の再編をして取り組んでいくこととなると思うが、宜しくお願い致します。

事務局長：東日本大震災対応プロジェクトにつきましては、私が担当ですので、私からご報告させていただきます。第1回の理事・役員会でもご報告させていただきましたが、平成28年4月1日、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所が開所した。そして、改めて本研究所属のアジア仏教社会福祉学術交流センター実施主体として、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の一環として、研究テーマ2「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発」（以下、「国内開発」）を行っていき事となったが、これは、本プロジェクトの成果をさらに深めていく内容であるため、本プロジェクトとの関連等について、整理を行った。

同じ内容の研究を深めるものであるため、この機会に整理をさせていただければと考えている。当初、この東日本大震災対応プロジェクトにつきましては、先行して行った3つのアンケート調査の内容を深めるという内容を準備してきたことである。「国内開発」として行っている支援事業の研究テーマについては、一方、「国内開発」としては、①東日本大震災被災地で支援を受けた側からの評価を知る手がかりとして、当該地域の社会福祉協議会を対象としたアンケート「東日本大震災を契機とした地域社会・社会福祉協議会と宗教施設（仏教寺院・神社など）との連携に関する調査」を実施するとともに、②情報共有の場としての「仏教社会支援活動プラットフォーム」の稼働を準備していた。

これらを整理し、まず①を本年度中に実施して報告書をまとめた上で、先行の調査結果を含めた更なる分析研究を行うこととした。（ちなみに①については地域の社協の方の協力も得てプリテストを完了し、また浄土宗総合研究所研究員の方々にも協力頂いて、10月下旬より調査開始予定。）

②「仏教社会支援活動プラットフォーム」については、現在システムの構築中。11月からの稼働を目指している。

また、東日本大震災だけでなく、熊本の地震も踏まえて、以上のような経緯もあり、次年度より、プロジェクト名を「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働モデルの開発」（略称、「国内開発」）と統一変

更して研究事業を継続していきたい。
そういった経緯とプロジェクト名の変更を併せてご了解いただきたい。

議長：以上のような方向で進めていくということで宜しいでしょうか。ありがとうございます。

事務局長：『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会についてであります。東部地域を梅原先生、西部地域を長上先生にとりまとめ役となっていて、昨年度からやっていた。今年度について予定等決まっていればと思うが。

梅原理事：3年間続けてやってきているので、今年度も石川先生のご協力を得て大正大学をお借りしてやっている。石川先生ともご相談をして、今年度中にやっていきたいと考えている。

事務局長：長上先生ですが、本日は、大学の会議等入って理事・役員会に出席されていないが、明日来られるとお聞きしている。その際にお聞きできたらと考えている。

議長：平成28年度 総会について

事務局長：明日、総会があるが、総会資料を事務局で整えたいと考えている。今日直前で、新入会員2名の追加がございました。本日の内容を踏まえた資料を作りたいと考えている。第2号議案につきましては、先程種智院大学より日程等いただきましたので、未定の部分は、確定したものをいれ込んで明日の総会の資料としたい。直前となるが、明日の臨時理事会の際に総会資料をお目通ししたいと考えている。学会則の一部変更や倫理規定についても明日の総会に諮ることとなる。ご了解の程宜しくお願い致します。(文責：事務局)



平成28年度 日本仏教社会福祉学会 臨時理事・役員会報告

日時：平成28年10月1日(土) 12:00~13:00
場所：立正大学 品川キャンパス

臨時理事・役員会においては、7月9日に淑徳大学埼玉キャンパスにて開票作業が行われた「平成28年度 日本仏教社会福祉学会理事選出選挙」の結果の説明と報告がなされた。

その後、新旧理事の初顔合わせが行われた。新旧理事から一言ずつ言葉をいただき、役員体制の引き継ぎ事項やプロジェクトについて話し合われた。

また、その場において理事・役員会として清水理事が次期の代表理事として推薦され、承認された。



平成28年度 日本仏教社会福祉学会 第51回大会報告

【大会概要】

1. 大会テーマ：
「仏教社会福祉の課題と展望」
2. 大会日時：
2015(平成28)年10月1日(土)~2日(日)
3. 大会会場：立正大学品川キャンパス
(東京都品川区大崎4-2-16)

【大会日程 1日目：10月1日(土)】

9:15~ 受付

9:30~10:10

日本仏教社会福祉学会50周年慶讃音楽法要
(石橋湛山記念講堂)

導師 立正大学学園理事長 古河 良皓 師
脇導師 立正大学仏教学部長 寺尾 英智 師
脇導師 記念大会実行委員長 三友 量順

10:10~10:45 開会式【50周年記念式典】
(石橋湛山記念講堂)

【挨拶】

日本仏教社会福祉学会 代表理事 長谷川 匡俊

【祝辞】

日本印度学仏教学会 理事長 丸井 浩
日本社会福祉学会 会長 岩崎 晋也
日本キリスト教社会福祉学会
会長 市川 一宏

日蓮宗宗務院 伝道局長 中井 本秀

11:00~12:00 基調講演【公開】1161 教室
日本仏教社会福祉学会 代表理事 長谷川 匡俊

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~16:45 大会シンポジウム【公開】
(1161 教室)

「仏教社会福祉の課題と展望」

シンポジスト 宮城 洋一郎 (本学会会員)
石川 到覚 (本学会会員)
長崎 陽子 (本学会会員)
コーディネーター 池上 要靖 (本学会会員)
特別コメンテーター 中垣 昌美 (本学会会員)

17:00~18:00 日本仏教社会福祉学会 総会
(1161 教室)

18:10~20:00 学会会員懇親会 (学生食堂)

【大会日程 2 日目: 10 月 2 日 (日)】

9:30~ 受付
9:50~ 研究発表 (11 号館)
第1 部会: 6 階1162教室
第2 部会: 6 階1163教室
・発表時間 報告時間20分、
質疑応答・討論10分で、1 報告は30分。

・発表内容

- ① 9:50~10:20
- ② 10:20~10:50
〔休憩〕
- ③ 11:00~11:30
- ④ 11:30~12:00

第1 部会 1162教室

- 1. 山田勝己(児童養護施設南山寮)
「日露戦争における愛知国恩婦人會の活動および愛知育児院婦人部への展開」
- 2. 新保祐光(大正大学) 田中美喜子(長崎純心大学) 吉水岳彦(大正大学) 鷺見宗信(大正大学) 石川到覚(大正大学)
「わが国におけるソーシャルワーク価値の基礎的研究
-自由記述の内容分析を中心に-」
- 3. 上原英正(浄土真宗)
「科学(die Wissenschaft)の知と仏教の知-仏教社会福祉研究の基本思惟-」
- 4. 池上要靖(身延山大学)
「仏教社会福祉原論確立に関する試論」

第2 部会 1163教室

- 1. 百瀬ユカリ(大東文化大学)
「幼児期の生命尊重の心を育む動物介在活動を中心とした実践活動について-仏教系幼稚園での移動動物園の事例を中心に-」
- 2. 佐伯典彦(社会福祉法人 青山福祉会)
「寝たきりになる前に、いのちは日々いただいていることに気づいたA 氏についての考察
(真宗カウンセリングの手法を参考にしながら)」

- 3. 河村諒(尚絅大学短期大学部)
「高齢者施設における宗教的な関わりの評価及び普及の可能性-浄土真宗関係の高齢者施設を通して-」
- 4. 佐々木隆夫(長崎国際大学)
「介護移住に伴う埋葬および永代供養の課題-墓所経営を視点とした理論的考察-」

平成28年度 日本仏教社会福祉学会
総会報告

第51回学術大会が行われ、初日の17時~18時まで、平成28年度総会が行われた。

池上 要靖理事が議長に選出され、平成27年度決算及び事業報告、平成29年度予算及び事業計画について議事が進められた。また、日本仏教社会福祉学会研究倫理指針の案が出され、承認された。日本仏教社会福祉学会会則の変更(代表理事の任期)も提案され、「代表理事の任期は一期三年である。但し再任の場合は連続二期までとする。また、通算で三期を上限とする。」ことが承認された。また、日本仏教社会福祉学会内規(研究会、勉強会等開催の際の講師謝礼)についても提案され、研究会、勉強会実施の際の講師謝礼について示され、承認された。理事選出選挙の実施についても報告され、前記した役員体制が提案され、承認された。

報告事項としては、会員の異動や担当理事・委員会報告、「仏教社会福祉学研究史(仮)」の継続や、『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会の開催、などが審議され、全案が可決された。



日本仏教社会福祉学会事務局

事務局長 藤森 雄介
事務局員 渡邊 義昭
藤田 則貴

〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
淑徳大学 埼玉キャンパス内

TEL: 049-274-1511 (代)
FAX: 049-274-1521

第52回学術大会について

**種智院大学 第52回大会実行委員会
宮城 洋一郎**

本年度学術大会でお知らせいたしましたように、次年度大会（第52回大会）は、京都・種智院大学が引き受けることになりました。日程等については、下記Aにまとめていますので、ご確認ください。大会テーマ等は鋭意準備中です。明年4月末日以降に大会要項を皆さまに送付いたしますので、お待ちください。

なお、ご承知のとおり近年の観光ブームにより京都は大変な賑わいをみせています。そのため、宿泊施設の確保が困難な状態にあります。そこで、会員の皆さまのご要望にお応えすべく、理事の方々のご協力を得て宿泊施設を確保することができました。下記Bにありますように、JTB京都支店様を窓口にお申し込みください。先着順となりますので、お早めにご予約いただきますようお願いいたします。

数年ぶりに京都の地での開催となります。大会校として多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。何卒よろしく願い申し上げます。

記

A. 大会開催期日

2017（平成29）年9月9日（土）～10日（日）

開催校 種智院大学

〒612-8156 京都市伏見区向島西定請70

電話075-604-5600

近鉄京都線 向島駅

（近鉄京都駅から8つ目の駅）より徒歩15分

（京都駅から大学までの所要時間 約30分）

問い合わせ先：実行委員会 宮城理事

miyagi@shuchiin.ac.jp

B. 宿泊施設

①京都第一ホテル

<http://www.kyoto-1-hotel.jp/access.html>

アクセス：JR京都駅八条西口（新幹線側）

より南へ徒歩約6分。または地下鉄

烏丸線九条駅（同京都駅の次の駅）

2番出口より徒歩約2分。種智院大学

には地下鉄烏丸線竹田駅（同京都

駅より4つ目の駅）で同じホーム

の近鉄に乗り換え4つ目の向島駅で

下車

9月8日（金）@12,140円

（お一人様・シングル利用朝食付）

9月9日（土）@13,140円

（お一人様・シングル利用朝食付）

※各日先着20部屋

② 法華クラブ京都

<https://www.hokke.co.jp/kyoto/#>

アクセス：JR京都駅 中央出口より徒歩約1分。

近鉄京都駅より徒歩約3分

9月8日（金）@14,540円

（お一人様・シングル利用朝食付）

9月9日（土）@14,540円

（お一人様・シングル利用朝食付）

※各日先着10部屋

申込方法

JTB京都支店営業一課 (kyoto_eigyol@west.jtb.jp) 宛に、下記内容をご記入のうえメールにてご送付ください。

件名は、「仏教社会福祉学会宿泊の件」としてください。

1. ご所属（大学または勤務先）名

2. お名前（フリガナ）

3. 性別

4. 連絡先電話番号

5. ご希望日及びホテル名

（第1希望・第2希望）

6. ご希望の部屋数

（複数の場合、ご宿泊者のお名前とフリガナ）

7. お支払い方法

（基本的にはお振込をお願いしております。）

8. 請求書の宛名

9. 請求書送付先ご住所

※手配しているお部屋が満席となった場合や、喫煙ルームをご希望の場合はリクエストベースとなります。

申込締切 平成29年7月7日（金）

お申込後、受付完了メールをお送りします。

お申込完了後の手続き

JTBより宿泊日の約一カ月前にご請求書を送付いたします。

請求書記載の期日までにお振込願います。

以上の手順となります。

問い合わせ先

（株）JTB西日本京都支店営業一課

前田・北村・内藤

〒600-8023

京都市下京区河原町通松原上ル2丁目

富永町338

京阪四条河原町ビル7階

TEL：075-365-7721